

オーディオ実験室収載

STAGE+を楽しむ(336)(HP 収載)

—プレトニヨフによるショパンとスクリャービン—

1. 始めに

前報(335)に引き続き、STAGE+のプレトニヨフによるショパンとスクリャービンの前奏曲のアルバムの試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、前報(325)に引き続きプレトニヨフによるショパンとスクリャービンの前奏曲のアルバムを選びました。

Chopin & Scriabin: 24 Preludes

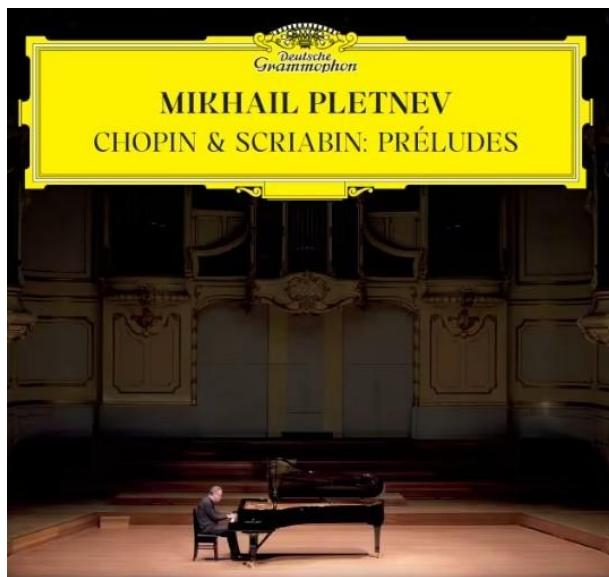
演奏:

ミハイル・プレトニヨフ (ピアノ)

曲目:

フレデリック・ショパン 24 Preludes, Op. 28

アレクサンドル・スクリャービン 24 Preludes, Op. 11



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナツも使用しています。さらに、スピーカーアキュライザーのマイナス端子への Crystal EpY-G の接続を継続し、PC の仮想アース Crystal E Jtune を連結しています。

また、ルーター→スイッチングハブ間の LAN 接続に OPT ISO BOX を適用し、OPT ISO BOX の AC アダプターの DC ケーブルに FX Audio の Petit Susie Solid State を介在させてスイッチング電源からのノイズの低減を図っています。

今回、スイッチングハブ→PC 間 LAN 接続は、LAN iPurifier Pro の交換後に元に戻しています。

今回は、PC の受信からクロック入力の修理済の Brooklyn DAC+に送り出しています。また、PC と Brooklyn DAC+の間の介在は、iPurifier USB からインフラノイズの USB アキュライザーに交換しています。クロック入力は ABS-7777 を適用しています。

このアルバムの映像付きの収録の演奏は、すでに STAGE+を楽しむ(326)で報告していますが、そのアルバムのリリースのようです。

STAGE+を楽しむ(326)では、「スクリャービンとショパンの 24 の前奏曲は、ともに詩情豊かな曲で、プレトニヨフがとつとつと弾いているようですが、味わい深くじっくりと聴かせてくれます。」と述べましたが、その印象は変わりません。

映像付きの収録の演奏との音質面での比較をしてみました。

ショパンの 24 の前奏曲は、しっとりとした味わいの演奏は変わりませんが、映像付きの収録の方が、肌理が細かく、アルバムの方はおだやかな音になっています。

スクリャービンの前奏曲は、しっとりとした味わいは変わりませんが、映像付きの収録の方が打鍵のアタック感が強く、アルバムの方はおだやかな音になっています。

4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナツや Crystal EpY-G や PC の仮想アース Crystal E Jtune を連結し、LAN 接続に OPT ISO BOX と電源交換した LAN iPurifier Pro を適用し、ABS-7777からのクロック入力の Brooklyn DAC+に送り出し、PC と Brooklyn DAC+の間には USB アキュライザーに交換した結果、味わい深くじっくりと聴かせてくれますが、映像付きの収録に比べると解像度やライブ感がやや後退気味なっています。

以上